「日々の理科」（第 1862 号）　2019,-8,14

「8 月 7 日の浅間山の微噴火（６）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

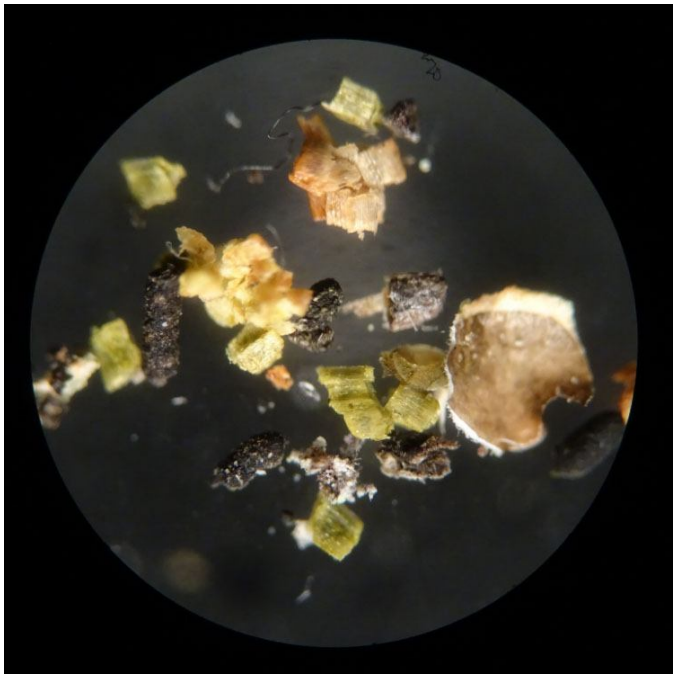
田中　千尋　Chihiro Tanaka

2019 年 8 月 7 日の浅間山噴火は、噴火とも呼べないような「微々たる噴火」だった。噴火そのものの映像による観測は困難で、噴火前後の火映現象もまったく観測されなかった。本当に噴火が起きたことを調べるには、噴出物を調べる以外に方法はない。

噴火が起きた 8 月 7 日の 23 時ごろから、翌朝 6 時まで、山荘のテラスに画用紙を置いてみた。もしここに鉱物の結晶が積もれば、浅間山由来の可能性はある。

翌朝画用紙を見ると、確かに何かが付着していた。カラマツの葉に混じって、砂粒のようなものも見える。量は微々たるもので、恐らく噴火が起きてなくても、風で舞い上がった土壌や砂が、この程度は積もるだろう。しかし。肉眼では砂の正体は不明なので、顕微鏡で観察してみることにした。

右上がその「砂」の顕微鏡写真である。右の一番大きい粒は植物の種子のようがだ、ほかは明らかに鉱物の結晶だ。



白いのは「斜長石」、緑が「斜方輝石」、黒は「角閃石」のように見える。しかし、これが今回の噴火による噴出物かどうかは判然としない。

噴火後に「警戒レベル」が１から３に上がったので、国道 146 号線にも、警戒を呼びかける表示があった。しかし、国道や一般道の通行止めは一切ない。

同じ理由で、小浅間山も登山禁止になった。登山口は封鎖され、軽井沢町の職員が警戒していた。